

「お子さんの発熱と解熱剤の使い方」



小児科部長
はんだ ようすけ
半田 陽祐

山香病院だより vol.188

外来で、「熱が出たら解熱剤を使う方がよいですか?」「元気がよくなるので解熱剤を6時間ごとに使っているけど、効果が切れると熱が出ます。大丈夫ですか?」とよく訊かれます。この不安はどこからくるのでしょうか? 大きな理由は「熱が高いと脳がやられるのでは?」ということではないでしょうか。熱中症のような特別な場合を除いて、通常の発熱で脳がやられるような体温にはなりませんので、「ご安心ください。風邪をはじめとする感染症の発熱は、ウイルスや細菌などの病原体が出しているのではありません。からだが病原体を退治するために出して

● 38・5℃(年長児は38℃以上) ます。ですので、風邪で40℃のお熱が続いても、それが理由で脳がダメージを受けることはありません。もちろん、脳がダメージを受ける脳炎・脳症や髄膜炎のような病気は、発熱の程度に関わらず重大な状況に至ります。けいれんや意識障害などの症状がある場合は、診察と必要に応じた検査が必要です。これを踏まえて、解熱剤の使い方についてご説明しましょう。

● 熱があるからといって、眠っているのに起こして使う必要はありません。ゆっくり眠らせてあげて、体力を維持しましょう。

● 一度使ったら、たとえ途中で熱が上がってきたとしても6時間は時間をあけましょう。

● 普通の風邪だけでなく、インフルエンザや水ぼうそうでも、お子さん用の解熱剤(アセトアミノフェン)は使えます。

● 解熱剤で熱が下がっても意識状態が悪い、けいれんした、嘔吐がおさまらないなどの症状がある場合は、病院に相談しましょう。

● 坐薬と飲み薬はどちらでも効果に大きな差はありませんので、使いやすい方でよいでしょう。

● 熱がまる1日落ち着くまでは急な変化に特に注意して、お子さんを励ましながら回復を応援してあげてください。

令和5年度の高齢者肺炎球菌定期接種の期間は令和6年3月31日までです。

【令和5年度の定期接種対象者】

※これまでに高齢者肺炎球菌予防接種を受けたことがある方(任意接種での接種も含む)は定期接種(助成)の対象になりません。

65歳(昭和33年4月2日～昭和34年4月1日生まれ)
70歳(昭和28年4月2日～昭和29年4月1日生まれ)
75歳(昭和23年4月2日～昭和24年4月1日生まれ)
80歳(昭和18年4月2日～昭和19年4月1日生まれ)
85歳(昭和13年4月2日～昭和14年4月1日生まれ)
90歳(昭和8年4月2日～昭和9年4月1日生まれ)
95歳(昭和3年4月2日～昭和4年4月1日生まれ)
100歳(大正12年4月2日～大正13年4月1日生まれ)
60歳以上65歳未満の方であって、心臓、腎臓又は呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する方及びヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する方

※この予防接種は主に個人予防目的のために行うものであることから、予防接種を受けるように努める義務はなく、自らの意思で接種を希望する場合に接種を行います。

※対象の生年月日であれば誕生日がきていなくても接種できます。

【接種期間】 令和5年4月1日～令和6年3月31日

【接種費用】

自己負担額3,000円(市の助成額4,965円)

※2回目以降の接種には市の助成はありません。全額自己負担となります。

【接種場所】

県内の高齢者肺炎球菌の予防接種をしている医療機関

※市内の医療機関の詳細については、杵築市公式ウェブサイトをご覧ください。

☎健康長寿あんしん課 ☎0978-64-2540